

Effects of maintaining web-based diaries by caregivers on adherence to care regimens in preschoolers with asthma

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-11-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00060007

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



博士論文審査結果報告書

学籍番号 1629022024

氏 名 土師 し の ぶ

論文審査員

主 査 (教授) 表 志津子 印

副 査 (教授) 塚崎 恵子 印

副 査 (教授) 毎田 佳子 印

論文題名 Effects of maintaining web-based diaries by caregivers on adherence to care regimens in preschoolers with asthma

論文審査結果

【論文内容の要旨】

喘息患児の日常生活における長期管理は、養育者と家族にとって心理的負担が大きく養育に影響を及ぼす恐れがある。本研究は、喘息の子どもをもつ養育者が携帯端末を用いてウェブ喘息日誌を記載し、子どもの喘息症状に関するフィードバックを定期的に受ける介入を行い、養育者の喘息管理のアドヒアランスの向上と養育に関する心理的負担の軽減の効果を明らかにした。

対象は、A大学アレルギー外来を受診した未就学喘息患児の喘息管理を担う養育者とした。養育者は4週間ウェブ喘息日誌を携帯端末で入力し、研究者は1週間の喘息症状と内服状態を視覚的に描いたEメールを毎週送信した。介入前後に、養育者はSurveyMonkey®にて自記式質問紙に回答した。調査内容は、属性、日本小児喘息管理プログラム (JPAC)、未就学喘息患児の養育者の喘息管理アドヒアランス (AAMCP)、家族機能の一般機能 (FAD-GF)、日本育児ストレスインデックスショートフォーム (PSI-SF)、小児気管支喘息養育者QOL (QOLCA-24) だった。本研究は金沢大学医学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

53人の養育者が研究に参加し、分析対象は脱落および欠損を除く45人 (84.9%) だった。介入前後の調査結果を対応のあるt検定で比較した。喘息コントロールは、介入前は 12.29 ± 2.65 、介入後は 13.02 ± 2.01 で有意に改善した。AAMCPは、介入前は 49.78 ± 7.20 、介入後は 52.13 ± 6.25 で有意に改善した。PSI-SF、FAD-GF、QOLは、介入前後に有意差はみられなかった。FAD-GFは介入前も介入後もカットオフ値を超えており、喘息管理の負担が大きく家族機能が悪いため、1か月間の介入では効果が得られないことが示唆された。

【審査結果の要旨】

本研究は、日本において初めてデジタル機器活用した喘息患児の養育者のアドヒアランス向上の介入効果を明らかにしたものであり、喘息管理と養育者への支援の発展に貢献できる。公開審査では、対象者の選出方法、分析方法、成果の還元と今後の発展に関して質疑され、適切な応答がなされた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士 (保健学) の学位を授与するに値すると評価する。